



平等寺だより

絆

住職 丸子 孝法

年頭にあたり皆様のご清福をご祈念申し上げます。

近年、『絆』という言葉をよく見聞きします。いいことばです。人と人との絆が人権、国と国との絆が平和、人間と自然の絆が環境です。絆、そのかわり合いに、しっかりとまなざしを向け、そのありようを正しめ、いくことが、人類のこゝれからの大きな課題となります。

絆を深めようとすると、最も大切なことは壁をつくらないことです。お釈迦さまの教えに『同事』とあります。これは壁をつくらないということ、す。永平寺の御開山道元禅師は、そのことを「海の水を辞せざるは同事なり」とあらわしておられます。海はどの川の水もよりごのみせず、すべてをうけとめているという意味です。この世に存在するすべてのものは、なくてよい存在

編集発行
☎633-0001
桜井市三輪 38
三輪山平等寺
TEL/FAX
0744-42-6033
<http://www.geocities.jp/byoudouji/>

は一つもなく、すべてが関わり合っています。太陽の光や熱雨や風だけでもありません。大地のめぐみもいっばいに頂いています。一粒のお米も一滴の水も、私たちの生命をささえてくれているのです。「絆」とは「かわりあい」、「結びつき」です。かぎりあるいのちです。共々に絆を深めながら、人間だけではなく、天にも地にもこの思いを深め、歩んでまいりましょう。今年もよろしくお願い致します。

石田さん来山

昨年、福井県宝慶寺の僧堂人権学習会に講師としてお招きしました石田雅男さんと懐子さん、永平寺に御案内した後、平等寺に立ち寄り、膝をつきあわせて遅くまで貴重なお話を聞かせて頂きました。

石田さんと懐子さんは十歳の時にハンセン病にかかり、国立療養所「長島愛生園」に入所され、約六十年間の療養所生活という辛く

険しい体験をされました。また、ハンセン病が引き起こす後遺症や差別・隔離による辛い実体験をうかがいました。

基本的にハンセン病は細菌による感染症の一つであります。感染力は非常に弱く、たとえ感染しても発病することはほとんどありません。現在、入所者の百パーセント近くが菌陰性（治癒）者であって、伝染する危険性は全くありません。



しかし今なお変わらないう偏見、差別問題が起きています。ハンセン病に限らず、性差別、部落差別等、様々な差別で苦しむ人々が多くいます。差別がなくなくなり、いわれなき迫害を受けたりしない世の中にするために、私達は差別を自らの問題とし、正しい知識を得、次の世代に伝えていかなければなりません。

親子坐禅会

平等寺境内において親子坐禅会を行っています。約十五分間の坐禅のあとに四十分間の遊びの時間をもうけています。夏はお滝に入ったり、秋は写仏をしたり、庭で宝探しゲームをしたり、お寺の中でお坊さんと触れ合いながら様々な経験ができるように考えています。保護者同伴の場合は年齢制限ありませんが、小学生以上なら子供だけでも参加可能です。小さな時分から静かに自分と向き合うことで得られる感性は少なくありません。また遊びを通じて、もの大切さや他人との接し方を学べる良い機会になると思います。催しによって仕込みが必要なものもあるので予約のうえお越し下さい。檀信徒でないお友達もお誘いいただいて結構です。

毎週第三日曜日

午後一時から二時まで
完全予約 参加費無料

☎090-1803-4473

mi-mrke@zeweb.ne.jp

※万が一のお怪我や事故の際は、当方では責任を負いかねます。事前にはスポーツ保険への加入をお勧めします。

担当 丸子道仁

行事写真 8月1日最勝会



皆で準備

道仁さん侍者

檀信徒塔婆供養

食と水を施す

教区御寺院様

御寺院様御焼香

平等寺梅花講

全員で焼香

有難うございました

しっかり坐禅

開 平成18年(2006年)12月8日 奈良新聞

(第3種郵便物認可)

仏さまに出会う旅 ◆59

三輪山平等寺の本尊十一面観音と聖徳太子像

(桜井市三輪)

山の辺の道の途中、大神神社の南側に立つ平等寺は、晩秋の紅葉に包まれて静かに息づいている。「あの門は節約のため、私が自分の手で造ったんですよ」。三輪山を背にした本堂で向き合った丸子孝法住職(まはらこうぽう)は、境内から桜井方面に続く小さな谷に溶け込んだ門を目をやり、さりとておっしゃる。

いま何事もなかったかのように穏やかな空気が流れるこの寺は丸子住職が十六年間、県内はもちろん、全国各地を托鉢(たくはつ)で回って小さな仮本堂一つから復興した寺なのだ。寺伝によると同寺の開祖は聖徳太子。大和の国の乱れを憂えた九歳の太子が三輪山に参り「平和の願いが

宗教



秘仏の本尊十一面観音さま(平等寺提供)

の宗性や西大寺の観音など、後世に名を残した高僧も数多く訪れている。関ヶ原の戦いで敗れた島津義弘は十三人の武将を連れて同寺に逃げ込んだ。当時の住職が「義弘が」といって思えば、いなければ、たまたまは済まされ、と追っ手を一喝した逸話も有名。一行は同寺で七日間を過ごし、無事、薩摩に帰還している。江戸時代には幕府の祈願所として栄えた。寺の近所には当時の栄華を語らねている家も多く、住職は「三輪は平等寺の門前町だったのです」と話す。そんな寺の運命を暗転させたのが明治初年の廃仏

聖徳太子開祖の寺を

16年かけ托鉢で復興

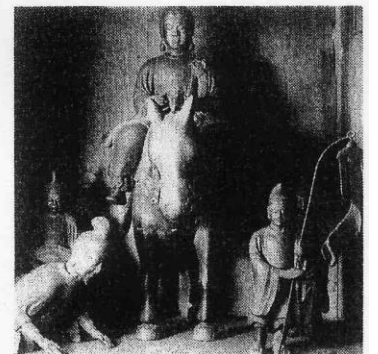
棄れた。建物はすべて取り壊され、土地は没収。六十一体の仏像が、ほかの寺や在家に移された。その中には聖林寺(桜井市)の十一面観音立像(国宝)をはじめ、立派な仏さまがいくつもあつた。かつての面影をなくし、壊滅状態となつた同寺だったが、復興の始まりは早い。明治十一年、かつて下馬所だったあたりの土地を国から払い下げられた地元の小西氏が土地を寄進。十八人の有志がかつての寺の廃材で「長屋のようなお堂」を建ててくれたのだ。「三輪の人々の温かい思いが、寺の歴史をつないだのです」と住職は涙ぐむ。

その後、何代もの住職が苦しい中で守ってきた同寺の歴史に丸子住職が登場するのは昭和四十年秋。住職は山形県出身だが、少年時代に重い病から救つ

成就したら、十一面観音を刻んで納める」との誓願を立てたという。中興の祖は平安末期から鎌倉期に活躍した慶円上人。東西五百里、南北三百三十里の境内には七堂伽藍(がらん)のほか十二の塔頭(たっちゅう)があり、三輪社奥の院として栄えた。三輪別所とも呼ばれ、根本修行道場となつていた同寺には多数の碩学(せきがく)が集まり、東大寺



丸子 孝法住職



地元の奥山家が百年間守り、寺に帰した聖徳太子さま(同)

てくれた奥山宗峰という行者との縁で先代と出会い、同寺に入る。ところが、わずか六年後に師は病没。家々を一軒一軒まわり、時には水を掛けられたこともあるという苦しい十六年間を支えたのは死を前にした先代の「托鉢をしてでも、平等寺を復興してくれ」という言葉だった。夏は十時間、冬は八時間。歩き続ける日々。「もうやめよう」と思いながら仮本堂でお勤めをしていると「本尊から日輪のような光が出て、私の腹中に入ったのです。これは、ただことではない。くじけてはだめだと思いました」。マスコミの応援も功を奏し、昭和六十二年夏に落

面協力で今は聖林寺の仏さまとして有名な十一面観音(国宝)を見事に写した。

現在、全国各地から請われ、講演の旅を重ねている住職。「欲張らず、復興はこれで完成。今後は協力してくださったみなさんの温かい心が伝わる気持ちの安らぐ寺であり続けたい」と話している。(直)

■メモ 十一面観音立像Ⅱ平等寺本堂所在。木造。像高九九。平安時代。秘仏。八月一日の最勝会で開帳▽聖徳太子像Ⅱ同寺本堂所在。木造。厨子高約九〇。時代不詳。交通 JR三輪駅から徒歩約十分。

坐禅会の思い出

岡本 幸夫

今から三十五年前、方丈様の暖かい志を受け、初めて坐禅会に参加させて頂きました。最初六名程が、日曜日の朝六時に現在の空手道場、当時はプレハブの建物で、丸い坐蒲に御尻を半分掛け、前で足を組み、両手を組み(右手を下、左手を上、親指を合す)背筋を伸ばし壁に向って約四十分、只ひたすらに坐ると教えられた。足が痛い、しびれが切れる、畳に足がくい込んで痛い、少し動くと方丈様の警策が肩を叩く、気を取り直しひたすら坐ると終る。その後、朝食だが、直に頂けると思うが、そうはいかない。食事前のおとなえ、作法、音をたてずに黙々とお粥を頂く、最後に茶碗にお茶を入れ残り一切れの漬物で茶碗の内をきれいに拭いて、



音をたてず一気に飲み干し、漬物を噛む音にも気を付ける、これで坐禅会は終る。坐禅とは辛い難しいものであると覚えている。でも、後になって、体も気持ちも何かしら、すっきりした事を思い出す。

坐禅とは、日頃の悩み苦しみ、その外の色々な事を忘れ、只ひたすら坐る事によつて無の心になる事だと思ふ。回を重ねる事によつて、自分なりに色々な悟りが開けてくる、先ずは御先祖様に感謝をし、人を信じ神仏を信じ、何か人様の為にさせて頂く事を心掛け、そして自然の恵みに感謝の心を持つ事が大事と思ふ。坐禅を重ねる事によつて、そういう事が分かってきた気がする。今の乱れた世の中、そういう心が大事だと思う。坐禅をさせて頂いた一人として、少し書かせて頂きました。ありがとうございます。ちなみに私は幸せです。

■方丈さんが永平寺から帰山されて間もなく最初の坐禅会が開かれました。岡本幸夫さんは、最初の参加者の中の一人でした。毎週日曜日の午前六時半から十名の方が本堂地下の坐禅堂にて坐っております。

永平寺参拝

毎年恒例の本山研修会に上平さん、岡本さんと辻本さんが参加されました。毎年六月末、七月初めに一泊二日で行きます。皆様も本山での修行は如何ですか。

緑蔭禅の集い

毎年七月二十二日、二十三日の二日間、奈良県曹洞宗青年会が「子ども緑蔭禅の集い」を青少年教化の一環として企画しています。昨年は永平寺に四十二名の子ども達が参加しました。朝三時に起きて目をこすりながら頑張りました。皆さんもお坊さんと一緒に一泊二日でお経や坐禅を体験してみませんか。小学生三年生から中学生まで六月末まで募集しています。

三輪の市開かれる

三輪の市が、今年も五月三日に開かれます。境内にプロからアマチュアまで六十もの店舗が並びます。ぜひ一度おいでください。

梅花へようこそ

第二十三回の奈良県梅花流奉詠大会が十月二十六日に開かれ、参加者は七名でした。特に今回は、方丈さんが、「道元禅師ご一代記」をまとめ、それを語り、それに九十歳の青山政雄先生が作曲され、一坊寺謙一氏が琵琶、笠石美代子氏が琴をひかれて、初公開されました。

■梅花講は毎月十八日の午後一時から楽しく稽古しています。皆々様には子供さんやお孫さんもつれだつて多数ご参加ください。

作務の日

毎年恒例の作務の日、今年は七十名を超える有志の方々が平等寺の隅々まで掃除して下さいました。(表紙写真) また、一心講や日高産業の方達も、掃除して下さいました。

研修道場報告

空手道MAC奈良支部の的場彰太が一月十九、二十日に沖縄で開催されました極真連合会の世界大会に、選抜大会で優勝し出場を決めました。また、花祭り、おんばら祭、万葉祭りで演武会を行いました。

090-71119-8767
<http://www.karatedo-mac.com/>

平等寺カイロ施術院

痛みは身体からのサインです。私たちの誰もが「良い状態」であろうとする強い治癒力を持つています。ところが自分では気づかないような日常の「くせ」がその邪魔をして痛み痺れが生まれてきます。平等寺カイロプラクティックは皆さまとともに「痛み」の「原因」を「理解」し「解消」し「予防」するための場所です。様々な情報が氾濫する今だから、身体の「ほん」と「の」声を聞きにおこしください。

■詳細はインターネット→Yahoo検索「平等寺カイロ」でご覧下さい。
■完全予約制 祝日・夜間も営業出張もしています

090-1803-4473

mi-mrk@ezweb.ne.jp

院長 丸子 道仁



護持会だより

日浦 雄作



その昔、平等寺は「東の平等寺か、西の松尾寺か」と称され、厄除で有名な、奈良でも十本の指に入るような大きなお寺だったとお聞きしております。その歴史を受け継ぐべく、孝法方丈様の強い意志と人並みならぬご努力で再建された平等寺は、現在全国的にも有名なお寺として名を馳せております。平等寺の檀家であることを私も大変光栄に思いますと同時に、このようなご縁を与えて頂きました仏様にも大変感謝している次第です。

という面、また孝法方丈様が各地からの講演の要請を受け、日本全国津々浦々まで仏様の教えを説き、平等寺の名を広めておられるという面、また(孝法方丈様が諸国で講演されている際)副住職の孝仁様が「平等寺の顔」としての役割を果たされている面だと感じました。

さて、世の中を見渡しますと、異常気象、大量消費、大量破壊、世界的な紛争、目を覆いたくなるような事件の数々、枚挙にいとまがありません。何故このような社会になってしまったのか、どうして人間はこのような過ちを繰り返すのか。幼い我孫を目の前にどうしたら、この子たちに夢と希望に満ちた将来を与えてあげられるのか、自問自答の日々です。

ふと考えるのは、人間は「幸福」というものの本来の意味を解さず余りに多くを求め過ぎて、少々傲慢になっていないかということ。なにが「幸福」というのは人毎に差があり、大変難しい問題ですが、我々人間は自然から「生かされている」尊い存在であり、幸福とはこの「生かされている」日々を一生懸命に生きることではないかということ。そのことを私は、毎朝の勤めの折に実感しております。最後になりましたが、皆様のご健勝と三輪山平等寺護持会の益々の発展をお祈り申し上げます。

お知らせ

合掌



護持会でお滝北側のフェンスを頑丈なものに替えました。

大晦日

大晦日の午後十一時四十五分から、除夜の鐘を突き始めると同時に、事務所前で甘酒を振舞っております。師岡さんが、ご家族でご奉仕くださっております。正月の初め午前零時から本堂にて、世界の平和と人々の幸福を祈って、法会(ほうえ)を修します。これを修正会といいます。どうぞお出で下さい。

年間行事予定

- 【二月】一〜三日 修正会
十四日 十二時 昼食
十三時 初護摩会
- 【二月】三日 十時 星祭会
十五日 七時 涅槃会
- 【三月】二十一日 十四時 彼岸会
- 【四月】六日 十時 大護摩会
(花祭り降誕会)
- 【五月】三日 三輪の市
【七月】上旬 本山研修会
十三日 作務の日
下旬 子供坐禅の集い
- 【八月】一日 九時半 最勝会
二十三日 十三時 地藏会
- 【九月】二十三日 十四時 彼岸会
- 【十月】下旬 梅花大会
- 【十二月】一〜八日 朝六時
撰心会並びに成道会
上旬 歳末托鉢行
二十一日 十四時 終護摩会
三十一日 除夜の鐘

月間行事予定

- 一・十五日 六時 祝祷朝課
四・二十九日 月仏参
- 十八日 十三時 梅花講
- 二十四日 十四時 水子供養
- 二十八日 十四時 護摩会
- (一月・十二月は右記参照)
- 日曜日 六時半 坐禅会
- 第三日 曜日 十三時 親子坐禅

みー子が行く②

お寺には猫の家族もいます。親は三毛猫でミーク、子は黒つぼくてふさふさしているのでフワワと呼んでいます。姿形は違っても真正正銘の親子です。世界中の人も、兄弟です。

三輪山裏

慌ただしく過ごす毎日、大切なことを忘れていませんか？じつと目を閉じて静かに思い出すと、今は亡き祖父の姿が、祖母の声が聞こえてきます。目に見える世界、耳に聞こえる音だけが全てではない、奇跡的な生命の繋がりの中で、私達は見えない所から生かされているのです。まずは履物を揃えます。

編集子 孝仁記

合掌

